

11 理系高学歴者のキャリア形成に関する実証的研究：高学歴無業者問題を考える

研究代表者 岩崎 久美子（生涯学習政策研究部 総括研究官）

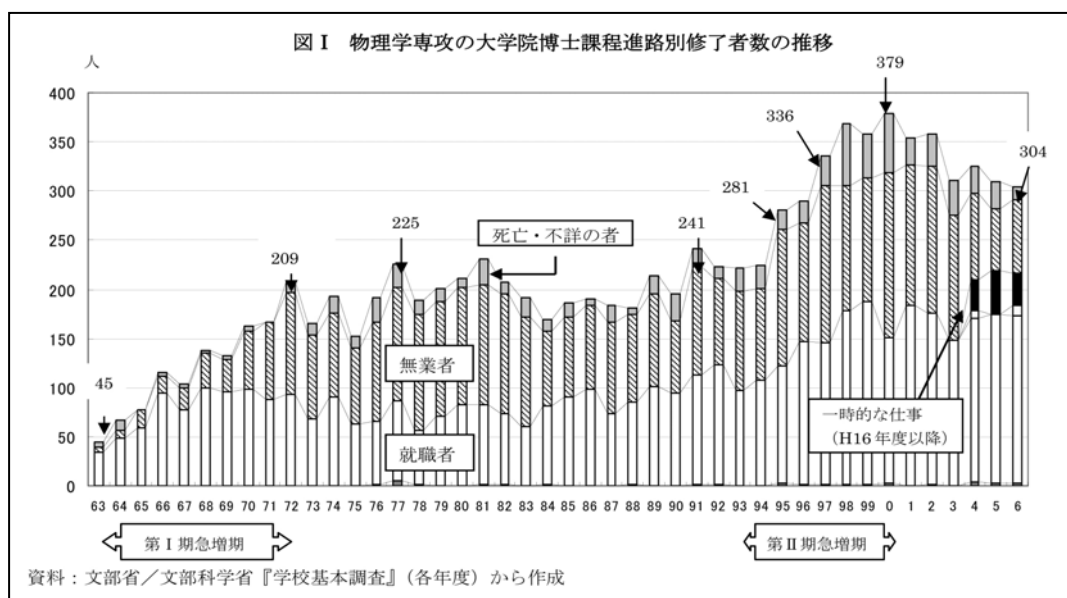
①研究の趣旨，ねらい

高学歴でありながら労働市場とのミスマッチのために「無業者」とならざるを得ない者の存在は、社会的に見れば有為な人材の浪費であり、個人から見ればキャリア形成の予期しない失敗を意味する。このような観点から、特に労働市場が研究職に限定される物理学専攻の者を対象に、（１）そのキャリア形成に関する実態を含めた調査分析を行い、（２）高学歴ではあるが、その専門性ゆえに「無業者」となってしまう問題点を明らかにし、（３）施策に向けた提言を試みる。

②研究成果の概要

○調査は、物理学専攻者を対象に、（１）ポストドクター（PD）面接調査、（２）自由記述形式の調査票によるキャリア変更事例調査、（３）日本物理学会会員を対象にした（社）日本物理学会との共同ウェブ調査、の３つの大きな柱から構成される。

○物理学専攻の博士課程修了者数の推移を見ると、急増する時期が二つある。それぞれを第Ⅰ期急増期（1970年代）、第Ⅱ期急増期（2000年以降）と呼称すれば、どちらも急増期以後、PDが滞留する現象が生じている。



○第Ⅰ期と比較し第Ⅱ期の特徴を挙げれば、(1) PDの絶対数の増加、(2) 大学法人化などの諸変化に伴う若手研究者の常勤ポストの減少と短期雇用の増加、(3) プロジェクト型競争的資金等の一時的な研究費保証によるPDの高年齢化、にある。

○常勤学術職をめぐる需給不均衡の拡大により、数字的には、学術職以外の職に就かざるをえないPDが一定数いることは自明であるが、進路変更は著しく困難である。理由は、

(1) 物理学専攻のPDのキャリア形成過程は、非常に早い段階で迷いや揺らぎがなく、その後も一途に研究者を目指してきた早期決定型と呼べるキャリアである。

(2) 優秀であればあるほど、研究費を継続的に受給できるため、30代前半までは、潤沢な研究費、自由な研究時間、常勤職への期待と研究意欲が高い。しかし、30代後半以降はキャリア展望の喪失から不安が一気に高まる。つまり、研究費が途絶え、キャリア変更を考え始めるときには高年齢化しているのが現状である。

(3) PDのうち他分野就職検討群は、総じて満足度が低い。特に「将来の見通し」に対する不安が高く、抑うつ傾向でも研究継続群と比べて相対的高さが認められる。就職を検討し始めた理由を見ても、キャリア変更の動機が、抑うつ傾向を伴った、将来の不安や悲観的感情にあることがわかる。

○PDの不安は将来設計ができないことに起因し、安心して研究を行うためには、将来の見通しを提示することが必須である。そのため、理系高学歴者の特性や年齢別ニーズにそった、メンタルな面も含む専門的キャリアサポート体制の確立、並びに適切な時期にキャリア変更可能な情報提供が必要であることが当研究で明らかになった。

### ③中期目標との関連性

○生涯学習政策研究部の目標3が定める、現代の日本社会が直面している諸課題の解決を図るための理論的・実証的な調査研究。その具体例として挙げられている、生涯を通じたキャリア開発の在り方の一研究である。

### ④本研究に盛り込まれている主なデータ項目

○ポストドクター面接調査（キャリア形成過程、キャリア変更に対する意識、など）

○物理学専攻者に対するウェブ調査（研究業績、自己評価、生活時間、社会的ネットワーク、満足度、抑うつ傾向、親の意識 など）

⑤今後の研究予定

- 共同調査を実施した、(社)日本物理学会キャリア支援センターが継続研究実施予定。

⑥キーワード

- (1) キャリア形成 (2) 理系高学歴者 (3) 高学歴無業者
- (4) 高等教育 (5) 大学院問題 (6) ポストドクター (PD)
- (7) オーバードクター (OD)

⑦本研究の研究報告書

- 理系高学歴者のキャリア形成に関する実証的研究報告書 (Ⅰ) 面接調査結果
  - 理系高学歴者のキャリア形成に関する実証的研究報告書 (Ⅱ) ウェブ調査結果
  - 理系高学歴者のキャリア形成に関する実証的研究報告書 (Ⅲ) 講演録
  - パンフレット
- (次のHPに掲載：<http://www.nier.go.jp/kougakureki/kougakureki.htm>.)

⑧関連する先行研究や参考となる研究等

- OD問題の解決をめざす若手研究者団体連絡会『オーバードクター白書：全国一斉アンケート調査報告』1981
- 日本の科学者会議(編)『オーバードクター問題：学術体制への警告』青木書店 1983年
- 科学技術政策研究所・第1調査研究グループ『自然科学系博士号取得の量的日米比較：日本の大学院博士課程に期待する研究養成機能に関する一考察』1989年
- 塚原修一・小林信一『日本の研究者養成』玉川大学出版部 1996年
- 科学技術政策研究所・(株)日本総合研究所『科学技術人材の活動実態に関する日米比較分析：博士号取得者のキャリアパス』2005年
- JRCM 産学金連携センター『オーバードクター就業支援推進のための実態調査研究』2005年
- 文部科学省・科学技術政策研究所『大学・公的研究機関等におけるポストドクター等の雇用状況調査：平成17年度調査』2006年